

附属機関等の名称	平成 27 年度第 1 回みよし市地域公共交通会議
開催日時	平成 27 年 5 月 11 日（火曜日） 午後 2 時から午後 3 時 40 分まで
開催場所	市役所 3 階 研修室 3・4
出席者	<p>【座長】 伊豆原浩二</p> <p>【副座長】 松本幸正</p> <p>【委員】 小川公夫 野々山勝利 鈴木初枝 藤根剛 新谷千晶 小久保信（代理石屋） 加藤直樹 山口直毅 古田寛（代理伊藤） 加藤憲治（代理鋤柄） 白木広治 大久保彰（代理田村） 高嶋敏博 永井勝義 鈴木淳 小嶋俊和</p> <p>【事務局】 政策推進部長 政策推進部次長 企画政策課長 企画政策課副主幹</p>
問い合わせ先	<p>政策推進部企画政策課</p> <p>電話番号 0561-32-8005</p> <p>ファックス番号 0561-76 - 5021</p> <p>メールアドレス kikaku@city.aichi-miyoshi.lg.jp</p>
審議経過	<p>《議事》</p> <p>1. 座長あいさつ</p> <p>昨年度に地域公共公共交通活性化再生法の一部改が行われました。国の制度が変わっても公共交通は、そこに住んでいる人々の生活の質を向上することが求められます。今後は鉄道、バスなどだけではなく広い意味での公共交通について考えていかなければならない時期にさしかかっていると思います。</p> <p>本日は、委員のみなさんそれぞれの立場はあると思いますが、そういった垣根を越えて広く、公共交通に対する忌憚のないご意見を伺いたいと思います。みよし市の公共交通をいかに役立ったものにするか、みなさんと一緒に議論していきたいと思っております。</p> <p>2. 報告事項</p> <p>※本会議は、さんさんバス利用促進審議会と兼ねるものとする。</p> <p>(1) 平成 26 年度さんさんバス実績報告について</p> <p>(2) 三好ヶ丘ループバス、愛知学泉大学スクールバス及び名鉄バスの利用状況について</p> <p>《事務局説明》</p>

【座長】

ただいま説明がありました報告事項（１）、（２）について、ご意見ご質問ございませんか。

— 意見なし —

報告事項

（３）平成２６年度さんさんバス路線フォローアップ調査結果について

《事務局説明》

【座長】

報告事項（３）について、ご質問ご意見ございませんか。

【副座長】

さんさんバスの利用者が増加傾向にあるが、その要因をつかんでおく必要があると思う。そのための調査だと思います。今回利用者が増えた要因について、簡単に説明してもらえますか。考えられるのは新規利用者の増、あるいは利用頻度の増が考えられると思いますが、今回の調査からどのように考えていますか。

【事務局】

今回新規利用者の増加が調査結果から分かります。利用の開始時期でいうと、バスを４台から６台に増やし、ダイヤ改編をした平成２４年４月の時期から利用を開始した人、始発エクスプレス便を開始した平成２５年度１０月から利用を開始した人が多くみられることから、市の利便性向上の取り組みが利用者増につながっていると考えます。

【副座長】

調査結果から、改編後利用者が増えているので、それが大きな要因だと思います。一方で利用頻度の経年比較をみると、利用頻度は若干減ってきているのがうかがえる。そのあたりの分析はしっかりしておく必要があると思います。全体の利用者数が増えてきているのは良いことだが、バス停別の乗降者数で前年度と比べ割合的に大きく減ったバス停もある。この悪くなった部分については要因を分析しておくことが大切だと思います。

【豊田都市交通研究所樋口研究員（オブザーバー）】

利用頻度の経年比較をみますと確かに減ってきている状況です。利用が増えた利用者の属性でみると専業主婦と高齢者、利用目的でいうと通院、買い物、飲食が増えています。これら増加項目をみるとさんさんバスを利用したお出掛けが定着してきていると考えられます。

【座長】

利用者数の変化は、医療制度の変更や介護医療制度の変更などの社会制度の変化

とリンクして考えることが重要。高齢者の分布状況の変化についてもとらえておくことが要因を考えるときには必要だと思います。

【伊藤代理】

月別の利用者数をみると8月が多くなっているが、どうしてでしょうか。

【事務局】

8月が多いのは、夏休み期間中でアイモール・イオンへのお子さん利用者の増加が要因だと思います。8月、12月、3月の利用者が多くなっているのは、学校の長期休暇期間のお子さんの利用者が増加する傾向にあるためだと考えます。

【座長】

便別平均利用者数で「くろまつくん」の便の中で、1便29.8人とかなり多くの利用者がある便があるが、積み残しは発生していないか。

【事務局】

1便の平均が29.8人ですので一度に利用するという状態ではありません。乗客積み残しについては、豊田厚生病院で1度だけ後ろの便をご利用くださいと案内した便があると聞いています。

【座長】

団体行動をとって利用される場合は、事前に確認する方策はありますか。

【事務局】

市内の小学3年生が、バスに乗る経験を体験する社会学習を実施する際には、教育委員会から事前に連絡をもらって、運行事業者に連絡を入れています。今後も教育委員会と連携をとって対応をしてみたいです。

【座長】

調査の回答で、改善について「現状のままでよい」との回答が一番多かったが、これは利用者の意見ですので、利用していない人の中から新しい利用者の掘り起こしを考えていかななくてはならないと思います。

【事務局】

来年度名鉄バスの豊田営業所管内のバスロケーションシステム整備の計画があります。愛教大線は既に整備されていますし、さんさんバスもバスロケーションシステムが利用できます。名鉄バスのバスロケ供用開始時期に合わせて、広報紙でバス利用についてPRする特集記事を掲載したいと考えています。

【副座長】

バスロケの利用状況からみても、意識調査の利用者の年齢属性からも若い世代の利用者が増えてきているのがうかがえる。この世代はスマホを使って、バスロケを活用してバスを利用している。若い世代はこういうシステムを上手に利用できる。ぜひ今後も情報提供やPRをしっかりやってほしい。

【永井委員】

高齢者などスマホでバスロケを利用する習慣のない人達もいます。ネットやスマホに頼らないバスの接近情報の提供を、安価に整備できるタイミングで行っていくとよいと思います。

【座長】

団塊の世代といわれる大勢の人たちが、車とバスを上手に使っていけるようになるかが重要だと思います。今後、そういう世代の人たちにも上手にPRしていく方策も検討して行ってほしいと思います。

報告事項

(4) 生活交通改善事業計画（利用環境改善促進等事業）について

《事務局説明》

【座長】

内容として、利用者にとって大変良いことですので、事前に承認の回答をいたしましたが、何かご質問ご意見はございませんか。名鉄バスからは、PRなど行っていかれる予定がありますか。

【加藤委員】

名鉄バスとしては、PR用のリーフレットを作成して周知を図ってまいります。

【座長】

東郷町、日進市の方にもPRをお願いします。

3 協議事項

さんさんバスダイヤ等の見直し方針について(案)

《事務局説明》

【座長】

さんさんバスも名鉄バスも(仮称)図書館学習交流プラザ側1カ所に統合するのですか。

【事務局】

さんさんバスのみ、1カ所に統合します。名鉄バスは現バス停(西側)をそのまま利用されます。

【藤根委員】

保田ヶ池方面から来たバスはUターンしてプラザ側のバス停に行くということですか。

【事務局】

市役所や保健センターを經由しますので、Uターンせずにバス停に行く経路をとります。

【高嶋委員】

バスベイは、バス全体が収まる幅がとれますか。また歩道は、バス待ちの人がいても通行者の妨げにならないだけの幅員がとれますか。

【事務局】

確保しています。

【座長】

バス待ちの人に、バスが来るのを知らせる方策が考えられるとよいと思います。

【事務局】

新施設の中にもバスロケのモニターを設置してまいります。

【副座長】

バス停が1カ所になると、乗り間違いが心配されますが、いかがか。

【事務局】

市内に同じ形式のバス停が6カ所あります。

【副座長】

同時刻にバスが集中する時間帯が、乗り間違いが起りやすいと思う。

【事務局】

変更後は、バス乗務員から行き先のアナウンスを確実に行うようにいたします。

【座長】

他に意見がないようでしたら、見直し方針（1）、（2）についてはよろしいと思います。

では、見直し方針（3）についてはご意見ありますか。

【副座長】

ダイヤの見直しは、遅延が発生しているならすべきだと思う。ただし、事実をとらえて行くべきだと思う。いろいろな調査結果をみると10分くらいまでの遅れならバスは待てるという意見も多い。どこまで待てるかは、いろいろな考え方があると思いますが、可能ならばバスロケのデータをもらって、遅延がどういう状況で発生しているか分析してから、必要があれば判断するとよいと思います。

【事務局】

前回のダイヤ改正後、1週間データを取ってみましたが、最大20分の遅延がありました。ただし折り返しの待ち時間がとってあるので、次の便に影響するような遅れは発生していません。

【副座長】

データが取れるなら最新のものを取って分析ができるか。

【事務局】

現在のシステムでは、こちらの希望するデータを自由に見ることはできません。バスロケ運営会社にデータ処理を依頼しないとできません。

【副座長】

何らかの方法で、データを取って状況を分析したうえでダイヤ改正の判断をするべきだと思います。休日の始発便の廃止と利用者の少ない7時台以降の厚生病院の乗り入れの取り止めについては、唐突に感じます。利用の少ない便をなくせば、次はその次に利用の少ない便が気になってきます。経費節減が大切なのは理解できますが、経費節減と利便性の向上は相反する部分があると思います。さんさんバスの運営として効率化を考えていかなければならないという大きな方針があれば、それに基づいて改正を行うことが必要かもしれませんが、全体の大きな方針がないのなら、利便性の向上を考えていかなければならないという方向性があってもよいと思います。

【新谷委員】

そもそも、さんさんバスは社会貢献のためという性質があるので、企業利益を追求するものとは異なると思います。自治体が行う公共交通としては、利用が少ないのを切るというのは、短絡的ではないかと感じます。利用者の利便性という面に目を向けて考えてはどうか。それにバスは遅れるものと考えているので、バスロケなど利用すればイライラすることも減ると思います。

【野々山委員】

福祉的な観点からみると、便が減るのはどうかと思います。

【小川委員】

利用者増につながる方策を考えるべきだと思います。

【座長】

データの分析を再度行ってから、一度再考してもらえますか。(3)ダイヤの見直しについては、データ分析を行ってからあらためて委員の皆さんに諮っていただくことにいたします。

【高嶋委員】

さんさんバスは、日進市や東郷町のコミュニティバスと接続する協議を行っていますか。豊田市の浄水駅と豊田厚生病院には乗り入れを行っていると思いますが、豊田市からもふれあいバスの乗り入れが行われているのですか。

【事務局】

日進市、東郷町とは具体的な協議は行っていません。今後の課題としてあげています。厚生病院から浄水駅は歩いて利用できる距離にありますので、浄水駅までは乗入れています。豊田市の地域バス「ふれあいバス」が明知下公民館まで乗り入

れています。

【座長】 本日の議題は以上です。

【事務局】

これで、本日のすべての議事を終了いたしました。

会議の終わりにあたりまして、政策推進部長の藤根よりごあいさつ申し上げます。

【政策推進部長】

長時間ありがとうございました。今回報告させていただきましたように利用者は過去最高を記録いたしました。これに驕ることなく、本日いただきましたご意見を参考にして、今後も一層の利用促進に取り組み、みなさんにとって利便性の高いバスとなるよう検討を進めてまいります。みなさんのご支援をよろしくお願いいたします。本日は、どうもありがとうございました。

—閉会—